

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100381		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホーム プランチャゼリア(1階さくら)		
所在地	島根県松江市黒田町199-1		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=3290100381-00&PrefCd=32&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社応援団		
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月～2ヶ月に1回、ボランティアの方に来ていただき、お客様との交流の場を設けている。 ・毎月、定期的にお客様とドライブや、公共施設などに行き、外出支援を行っている。 ・毎日、ホールでの体操や、2階の訓練室にあるリハビリマシンを使い、下肢筋力低下予防に務めている。 ・地域の小学校と連携し、そこに通学する子供達との交流を開始した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に添った統一したケアが行えるよう意見交換を行い、2つあるユニットの両方の利用者の様子がわかるようユニットを越えて関わりが持てるよう取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議では全家族に毎回参加を呼び掛けている。開催月によって家族の参加が多い時や少ない時があるが、家族同士顔を合わせる機会となっている。会議ではスライドショーで日頃の利用者の様子を紹介したり、勉強会を催すなど内容は様々である。会議の様子を写真付きの報告書にまとめて全家族に送付し運営推進会議の様子がわかるよう配慮されている。</p> <p>散歩や買い物に出かける機会が増え、併設しているデイサービスの利用者がユニットに遊びにくるなど、交流できるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームの目立つ所に理念を掲示してある。 全体会議で理念について振り返っている。	理念に基づいた目標を掲げ、毎月のユニット会議で振り返りを行い、全職員で共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流会を開催し地域の方々に来て頂いている。地域の公民館での催し物にお客様と出掛けている。地域の小学校と「葉ぼたん」を通し交流をしている。地域ボランティアとの交流も定着している。	地域行事へ出かける機会が増えた。小学生との交流も開始され、地域との付き合いが広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方に研修等で得た専門的な知識を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、施設での取り組みをスライド映像を使い分かりやすく紹介したり施設での稼働状況も伝えている。会議での意見交換で出された意見に対し次の会議で振り返りを行っている。	家族の参加が多く、会議の中で学習会や意見交換が行われている。毎回職員が志向を凝らした会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を通じて、意見交換を行っている。事業所便りを持って行き情報を発信している。	運営推進会議には市の担当者と包括支援センターの職員に参加してもらい、事業所理解を深めてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を行い職員の知識向上を図り、お客様に安心して暮らすことが出来る見守りを行っている。 お客様が、落ち着かず外へ出られるような様子が見られたら、さりげなく声がけをし、行動を止めないよう支援している。	対象者はいないが研修で職員の理解を深めている。気付いたことは記録に残し、その日のケアを振り返り安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気になった事はその都度、カンファレンスや、ユニット会議などで話し合いを行っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部での研修や、勉強会を通じて学ぶ機会が多く、それらに参加し、お客様へのサービスとして実施出来る様務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、お客様、ご家族様に可能な限り丁寧に分かりやすく説明させて頂き、質疑応答にも分かりやすく答えさせて頂いている。また、お客様だけでなく、ご家族様の希望も細やかに聞き実践出来る様務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に1回運営推進会議を開催し、活動状況及び事業所の現状、サービス内容等を伝えさせて頂いている。また、意見交換の場を設け、頂いた意見を反映させるように務めている。	家族からの意見や気づきを聞くことは多く、カンファレンスを通して検討し報告を行っている。年に1回家族アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議、全体会議にて、多くの参加職員の意見交換の場を設け、反映させている。	日々の職員の意見は気づきシートで共有している。年に2回管理者との面談の時間を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間で、常に気配りをし、働きやすい職場環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会実施にて、新人職員だけでなく、他の職員も知識向上の場を設けている。又内外部研修を通じ知識向上だけでなく、学んだことを実施できるように務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所リーダー、管理者がグループホーム部会等に参加させていただき、同業種の方と交流を図っている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にお客様宅に事前訪問し、本人様や、ご家族様から要望等、情報を得た上で職員間で、カンファレンスを行いケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問にて、ご家族様からの要望などの情報を得た上で、ケアプランに反映し、担当者会議などで、ご家族様からご意見を頂き安心できる関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議等にて、本人様や家族様の要望を聞き、日々のカンファレンスなどで、職員間で話し合いを行い、必要としている支援を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に、お客様と一緒に調理を行ったり、洗濯物や、食器洗い、食器拭きなど、家事のお手伝い等お互い協力していける環境作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、面会時、最近の様子や状態報告をおこなっている。その中で頂いたご意見などは、ご家族の協力を得ながら一緒に本人様を支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を受けながら個別外出や、個別外泊等で、ご本人様の馴染みの場所や、馴染みの方々に会う機会を設けられるよう支援に務めている。	普段の会話の中や家族からの話で馴染みを把握している。家族にお願いして自宅に帰宅してもらうなど継続的な繋がりができるように働きかけている。	利用者理解を深め、馴染みの場所と関わりが広がるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の要望や、お客様同士の関係性を十分考慮し、お客様が穏やかに楽しく生活出来る様支援に務めている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も施設行事に参加して頂けるよう案内を出している。 入院された場合もお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話からお客様の希望、要望をくみとり反映できるように務めている。	帰宅願望が強い時にはドライブに出かけるなど把握した思いから外出する機会も多い。センター方式のツールを利用して情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族が面会に来られた時ご自宅で生活されていた時の様子や趣味等の話を聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況は生活記録に残し状態変化を見逃さないよう申し送りに努め状態変化に合わせた対応に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子は面会時やお手紙などで家族様に伝え家族様からのご意見要望お客様の状態を介護サービス計画に反映させている。 ユニット会議などで、お客様については、職員全員で話し合い検討している。	事前に家族からの要望を聞き取り職員間で話し合い、計画を作成している。担当職員が中心となって3ヶ月に1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子やお客様の言動など、身体的状況は生活記録に記入、常に職員が把握できるようにしている。状態変化があった場合常にそれに合った介護計画が立てられるよう見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほんにん、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は対応している。他部署や他職種とも連携を図り、いつでも支援が受けられる体制になっている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括センターの方やご家族に参加していただき、意見交換の場を設けている。お客様の状態を見ながら定期的に外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、通院はご本人様、ご家族様の希望に沿って対応しており、定期的に主治医に往診を行ってもらい、急変時や状態変化があった場合は主治医に報告、対応していただいている。	入所時に医師の指定はしておらず、希望する医師をかかりつけ医としている。4名の医師が往診対応しており、適切な医療を受けられるよう支援が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し、お客様の健康状態や状態変化に対応した支援が行える様心がけている。お客様の状態で気になることがあれば、直ちに看護師に報告し、適切な対応が出来る様心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関にお客様の情報提供を行い、ご家族様とも情報交換を行いながら、速やかな退院に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とご家族様を交え、急変時における確認書と共に話し合いを行っている。終末期ケアの対応については、勉強会や、話し合いを行っており、看取りも行っている。	今年度は3名の看取りを実施。入所時に看取りの指針で事業所のできることを説明し、意識の共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、急変時対応については、研修、勉強会を通じ、全職員が対応出来る様努め、話し合いを繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回防災訓練を実施、お客様にもさんかして頂いている。また、消防署の方にも協力していただき、消火訓練、通報訓練を行っている。	地域の防災訓練に参加し、地域の消防団との交流もある。原発事故発生時のマニュアルも新たに検討中である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴介助時や、居室内での着替えの際は、扉を閉めさせて頂き、居室に入る時は、ノックをして、挨拶をしてから入室するよう対応している。	ユニット会議で言葉掛けや対応について話し合ったり、学習会も行っている。トイレ誘導の時には他の人に聞こえないように言葉掛けに配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴準備の際は、着替える衣服を選んで頂いたり、何かする時は希望をお聞きし提供している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時は、入浴されたい時間帯をお聞きし、その人のリズムに合わせ実施している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、髪を整えて頂いたり、季節にあった好みの洋服を着ていただいている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛りつけ、食器拭きなど、お客様それぞれの出来ることをお願いし、自分の役割を持っていただけるようにしている。	食事の準備や片付けは職員と一緒に行い、献立は栄養士の助言をもらい作成している。とろみ食やきざみ食など利用者が食べやすい工夫している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立は、栄養士に確認してもらい、同じようなメニューが続かないように指示をもらっている。食事や、水分が入りにくいお客様には、ゼリーや栄養補助食品を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、義歯を洗ってうがいをして頂いているが、出来ない方には、職員が介助をし、口腔内の清潔を保つようにしている。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、定期的に排泄の声掛け誘導を行っている。トイレ誘導時は、他のお客様に聞こえないよう配慮し声掛けを行っている。	トイレでの排泄を大切にしながら、パットやリハビリパンツを一人ひとりに合わせて使用を検討し、個別の排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時の補水を行い、水分摂取していただくと共に、排便チェック表にて排便確認を行い、状況によっては、看護師と連携をとり下剤などで排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日々の入浴は、お客様の希望の時間をお聞きし決めさせていただいている。気の進まない方には、時間をずらしたり、様子を伺いながら、本人の意向にそって入浴している。	最低でも3日1回、若しくは週2回を目途に支援している。また、希望される時間帯に入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操や、施設内外の散歩など活動して頂くように支援している。体調がすぐれないようであれば、居室でゆっくり休んでいただいたり、夜間眠れず、ホールに出られる方には、職員が付き添い過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は個別ファイルに閉じ、職員が常に把握出来る様にしている。薬の変更等あれば、その都度状態観察を行い、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、食器拭き等お客様に出来る仕事をお願いし、終了後は感謝の言葉を伝えている。又、ボランティアの方々に定期的に来ていただいたり、お菓子作りなどのレクリエーションを通じ楽しみを持って生活して頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候を考えながら近道を散歩していただいたり、季節に応じてドライブや、外食に出掛けたりしている。又、ご家族様と自宅で外泊出来る様支援している。	ドライブに出かけることが多く、喫茶店や公園などその日の状況に応じて出かけられるところに出かけている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金を持っておられる方もいるので、毎日所持金を職員と一緒に確認している。喫茶や、買い物での支払いをご自分で出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかけたいとの要望があれば支援し、会話が他の方に聞こえないよう場所の配慮もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、ホール、玄関にお客様と季節感のある展示物を作成し飾っている。 ホールの和室で横になられる方もいるので、天気の良い日は、遮光カーテンにて、居心地よくすごしていただけるようにしている。	リビングと食堂は一体的で広く、共用空間は清潔に保たれている。仕切りが無く広いキッチンには利用者が入りやすく、いい香りがリビングに広がっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話が合う方同士で近くの席に座っていただいている。和室スペースを設置したことで、共用空間の中でひとりにまれる場所も作れている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持ってきて頂き使用されている。家族様と相談し、自宅ですごされていた部屋に近い居室作りを行っている。	ベットとクローゼットが備え付けで配置されている。好みの物をもちこみ個性を生かした部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様がご自分の居室を認識できるよう、顔写真入りの表札を設置している。居室内外とも、動かされた際に怪我等無いよう、家具などの保護を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100381		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホームプランチアゼリア(2階ぼたんユニット)		
所在地	島根県松江市黒田町199-1		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3290100381-00&PrefCd=32&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成27年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

両ユニット合同で行事を実施したり、合同お菓子作りを行う等、定期的に両ユニットの交友関係を持つようにしている。ボランティアの方に定期的に来て頂いたり地域の行事に参加する等地域との関わりの場を設けている。運営推進会議では家族様からの意見が挙がる事が多く運営に反映している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38) ○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示してあり職員の目に留まるようにしており理念に基づいたケアをどう実施するかという話し合いを会議内で行えるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方を定期的にお呼びしお客様と関わりが持てるようにしている。 又、地域の行事があった際には、参加できるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を偶数月に実施し、施設内の情報を発信している。参加されなかった家族には手紙を作成しお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で稼働状況や日々の様子を伝え参加された方々の意見や要望を運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に伝達・報告をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的な場面で、ちょっとした静止の言葉などを取り上げ、職員間で考える場を持ち共有し、意識付けに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より職員間で気になったことなどは会議で話し合いをしている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学び伝達講習を行う事で理解を深めている。現在、対象となる方はおられないが今後必要になってくるかもしれないので継続的に学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明している。特に、起こりうるリスクなど具体例を上げ、医療連携加算・利用料金については説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度運営推進会議や家族様へのアンケート通して集まった意見を職員に伝え運営に反映している。 家族様の面会も幸い多い為その都度改善はしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などを毎月設け職員から意見を聞きいい提案は取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議及びユニット会議内において、職員のストレスチェックや、健康管理について話し合いを持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員を対象とした研修を法人全体で実施しており参加後には研修の報告を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員それぞれが研修に出ていき他事業所と顔なじみとなり顔の見える環境作りを心掛けている。勉強してきたことや他事業所の良い点は説教的に取り入れるようにしている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が何に困っておられるか家族などから聞くなどして探り、本人はもとより入所されてからも安心できるように職員間で共有しカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や担当者会議で本人様だけではなく、ご家族様の要望も聞き、ケアに反映できるように努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思い、現状を確認しより良い支援の提案や必要であれば他のサービス利用の提案も行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に介助するのではなく、家事や作業の手伝いをして頂くなど職員主体ではなくお客様同士が支えあって暮らす場面作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回手紙を出したり、ご家族から生活歴の話を聞きお客様との何気ない会話時に話題に出したりすることで家族の事を思うきっかけにしている。また、ご家族と一緒に外出する機会も設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出の機会を設け、ご家族と協力しながら馴染みのある場所へ出かけたり、友人と再会したりと自宅周辺での交流が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間意識を持つことで利用者様は孤立せずに同じ悩みを持った同士が関わりあっているよう支援している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了後も、施設行事等に参加して頂けるよう、案内などを送付させて頂き、継続的な付き合いが出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での声掛けや会話などから、お客様の希望や要望をくみ取り応えるよう努めている。 また、私の気持ちシート等を活用し利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族が面会に来られた際、これまでのご自宅での生活の様子など、話を聞かせて頂き、その生活歴や環境に沿ったケアが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況は生活記録に残し、少しの変化も見逃さないよう、申し送りをしている。心身状態の変化に応じた対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態や本人様の意向に沿った介護計画書をケアマネジャーと一緒に作成し、実践している。また、状態に合わせて介護計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態は、申し送りやカルテへの記入等により、職員間で常に把握できるようにしている。状態変化に合わせた介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護・リハビリ等様々な職種と連携し、いつでも支援が受けられる体制になっている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加して頂き意見交換の場を設けている。また、近所の公民館が実施している喫茶に外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診やかかりつけ医の往診は記録に残せている。急変時や状態変化があった際には報告し対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で状態変化、気付いたこと等はナースに報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関にお客様の情報提供を行い、ご家族とも連絡を取り速やかな退院に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に主治医とご家族様で急変時における確認書とともに話し合いを行っている。終末期における対応は看護師も交え実施している。ターミナル時には、施設で作成したフローチャートをもとに全職員が対応できるような体制が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や急変時、事故発生した場合の手順や対応方法等、施設全体やユニット内で話し合い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、いつでもすぐに見れる場所に保管してある。年に2回の避難訓練を行い、お客様にも参加して頂いている。また、消防署も協力して頂いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛けを行いプライバシーや人格を尊重したケアを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の意見を尊重し要望を聞いて自己決定できるよう支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人一人のやりたい事や希望に沿ったことを大切に日々過ごして頂いている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温や季節に合った衣服を選んで頂き出かけるときにはおしゃれが出来るよう支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあったメニューを考えまた、お客様の好みも聞き要望に応えた食事を提供したり、一緒に準備・食事・片づけ等を手伝って頂いている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューのチェック、水分量チェック刻み食やトロミ食など状態にあった食事に行っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様一人一人に合った声掛けを行い見守りや出来ないところを介助させて頂き清潔保持をしている。又、義歯洗浄を週3回している。

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人に合わせて排泄介助を行いなるべくトイレでの排泄をして頂くよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お客様の主治医と連携を図り薬剤調整を行っている。薬剤に頼らないように排便が出る工夫として便通のいい食事やコーヒーや紅茶などに牛乳を入れるなど自然な排便があるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に希望の時間を伺い入浴を行っている。また、声掛けをし出来ることは自分でして頂き残存能力を活かせるよう介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡時や夜間入眠できないお客様には、声掛けを行い話を伺ったりお茶を飲むなどリラックスして頂きゆっくりと過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報などは、個人ファイルにとじて職員が見れるようになっている。状態変化のあった時には、主治医と連携を図り観察を行い、薬剤の変更があった場合には職員同士共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態に合わせて出来るお手伝いをお願いしている。また、日々退屈されないようレクリエーションや散歩など気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様の希望に沿ったところへの外出・散歩・ドライブとリフレッシュしている。又、自宅への外泊や外食も支援している。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際に本人様が欲しいものを購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への手紙にお客様の普段の様子や行事、ご本人様から希望があれば発送できるように支援をしている また、友人より施設への電話がありご本人様との会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある家具や寝具など持ち込んで頂きなるべく自宅に近い生活空間にして頂き環境変化が少なくなるよう心掛けている。フロアには、季節に応じた飾りつけなどを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにたたみスペースや長椅子が配置しており気の合ったお客様同士で話をして頂ける空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご本人の馴染みのある家具などを持って来てもらい、本人様が使用しやすいような配置をしている。また、馴染みのある洋服などを持って来てもらいタンスには、入っている物のシールなどを貼り一目でわかるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ安心して過ごして頂けるような家具の配置を行い自立した生活を送れるよう支援している。		